

令和2・3年度 神奈川県立学校 第三者評価実施報告書

| 評価実施校 | 市ケ尾高等学校 | 課題解決に向けた取組状況への評価・助言 ＜評価委員＞ | 課題解決に向けた取組の成果と課題 ＜実施校＞ |
|----------|---|---|--|
| カテゴリ名 | 教育委員会が指定する学校 | | |
| 課題 1 | <p>学校運営のビジョンを具現化するための進路指導・支援の適切な方針の策定・課題としては、一般に進路指導・支援と教育課程・学習指導は、別の枠組みで捉えられることが多いが、当校はそこを一体的に進めて行こうとする立場であると理解しており、それをどう具現化するかであると考え。また、進路指導・支援の具体策の検討に向けて、3つの育みたい力（計画力・文章力・発表力）の育成に重点化した学校運営の方針と、どのように関連させていくのかを早急に固めていく必要がある。</p> | <p>進路指導に関しては、その評価の観点を「生徒（や保護者）の満足度」に設定するとともに、その意識の向上に向けて概ね3点の取組をすすめてきた。①進路に関する資料の収集と情報提示の工夫である。進路指導室はもとより、廊下や階段の壁などを活用して、生徒の関心を引きつける掲示物を配置する工夫を凝らした取組をすすめた。②学年全体で取り組む「進路講演会」や「大学教員等による大学説明会」と、生徒一人ひとりに寄り添う「三者面談」や「個人指導」といった個と全体をミックスさせながら取組をすすめたことである。コロナ禍により大人数での説明会が実施しにくい状況が続いたことから、例年どおりの予定で進められなかった点は大いに残念である。③「満足度」に関わる生徒の意識の実態把握に向けて、「進路に関する満足度調査」の質問事項を策定しプレ調査を行ったことである。本調査の本格的な実施は、令和3年度卒業生になると思われるが、プレ調査でもある程度までは分析できるだけの結果が得られているので、学校の取組へのフィードバックが期待される。これらの取組を進めた当校であるが、いくつかの点で課題も残った。それらは、以下のとおりである。①「日々の授業や学習を通じて、自分の資質・能力や生き方を見つめ自覚できるようになること。その延長線上に進路選択や決定があること」といった意識の醸成について、十分取り組めていない実態があること。②「進路に関する満足度調査」の全面的な実施、さらにその結果分析からの指導・支援体制の見直しという、学校としてのマネジメント体制の確立にまでは至らなかったこと。プレ調査の結果からも、改善に資する知見は得られるように思われるので、ぜひ積極的に活用するとともに、校内のキャリア支援会議等での活用のあるり方を検討していくことを期待したい。（満足度調査の指標を「生徒一人ひとりの進路に関する意識の変化」ととらえる方向で修正することを含む。）</p> | <p>＜成果＞ 「生徒（保護者）の満足度調査」のプレ調査から見られた課題を基に、次のような取組みを行い、課題解決に向けて一定程度の成果がみられた。①進路に関する情報提示の方法を廊下掲示等を加えることで、生徒の進路に関する意識改善が図られた。②「進路講演会」を軸とした組織的な進路説明会等を設定することと、「三者面談」を組み合わせることで、個に応じた進路支援体制の構築ができた。③評価委員からの助言を基に、「進路に関する満足度調査」の質問項目に変更を加え、令和3年度卒業生全員を対象にした本調査を実施することに繋がった。この調査を通じて、本校の進路指導体制の分析につながるものが期待できる。</p> <p>＜課題＞ ①教員のICT機器の利活用を中心に大幅な授業改善等が図られたが、「日々の授業や学習を通じて、生徒自身が自らの資質・能力や生き方を見つめて、その延長線上にある進路選択の決定」に結びつけるといった意識の醸成が十分になされていないこと。②生徒の希望する進路の実現に向けて、卒業生を対象とした「進路に関する満足度調査」のプレ調査の実施に結びつけることはできたが、調査の母体が小規模にとどまり、十分な調査結果の分析ができなかった。その結果、本校の進路指導体制の見直しにつながるような十分な成果を出せなかった。</p> |
| R3 指標 | <p>3年生の卒業時における、進路に係る満足度調査（学校の進路支援や、生徒自身が卒業後の進路について、どの程度満足しているか）を本格的に実施する。引き続き肯定的な意見が80%以上となることを目指す。そのために、年間5回（1学期2回、2学期2回、3学期1回）キャリア支援会議を設定し、教員間の意識共有と、具体策の検討を行う。</p> | | |
| 課題 2 | <p>「身につけさせたい力」を着実に育成するための授業改善及び組織的な推進体制の整備 ・「生徒に身につけさせたい力」を着実に育成するための見通しや手立てについては、その根拠の多くが年間指導計画の検討や授業評価アンケート等であるように読み取れる。授業評価アンケートについては様々な要因が絡み合うため、客観的な学力データ等（模擬試験等の結果）も併せて見る等、更なる分析が必要である。</p> | <p>授業改善に関しては、「生徒に身につけさせたい力」を設定し、「各教科・グループの育成方針表」（コンピテンシーマトリックス）を作成した。これらを基盤にして、データの収集と活用、反映に努めた。具体的には、「生徒による授業評価」を検討し、授業改善への要望に対応するために、改善の手立てを各教科で策定している。総合的な探究の時間については、教育内容・方法上の改善が見られた。その結果、生徒の発表力、発信力が向上しているが、さらに高水準の授業を目指すことが求められる。校内研修も行われており、そこで示された校長の方向付けは有効であると考えられる。今後の課題は3点に集約できる。①業者テスト、校内テスト、進路実績といった客観的な学力や実績との関連性から改善の方向性を探ることが求められる。その際、校内における学力の分散を意識しつつ、丁寧な指導や支援が必要となる。②学校全体、つまり全教職員で、未来社会に対応した自立した学び、すなわち「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教員の創意工夫とカリキュラム・マネジメントを一層推進することが課題になる。すでに学校側でも認識されているように、各教科及び総合的な探究の時間を往還させることで、クロスカリキュラムとしての「連携・協力」が明確化・実質化される必要がある。③今回の優れた取組をどのように学校組織として持続可能なものにしていくかが問われる。この点、すでに若手の育成やグループ業務運営の実質化という観点から対応が着手されているものの、現状に留まることなく、組織運営上のさらなる取組と発展が期待される。</p> | <p>＜成果＞ あり方ワーキンググループを中心に、「生徒に身につけさせたい力」をすべての職員で確認し、評価委員の助言を基に、「各教科・グループの育成指針」（コンピテンシーマトリックス）を作成し、具体的な授業改善の手立てを策定した。また、総合的な探究の時間の探究活動を通じて、生徒の計画力、文章力、発表力の育成に結びつけることができた。当初は、あり方ワーキンググループで本校の課題等のあぶり出しや具体的な改善策について協議、検討していたが、ボトムアップ型の組織づくりを図ることで教職員の意識改善が見られ、あり方ワーキンググループを離れ、各グループの業務改善に繋がった。</p> <p>＜課題＞ ①業者テスト、定期試験、進路実績を丁寧に分析することで、学校全体の学習指導体制を俯瞰することが可能となるが、現時点ではその取り組みが十分になされていない。②総合的な探究の時間を軸とした教科横断的な探究活動を推し進めていくことが求められるが、教科間における「連携・協力」体制が組織化されていない。③授業改善研修や各グループによる若手の人材育成が進んでいるが、学校全体での組織的な取組みが課題である。</p> |
| R3 指標 | <ul style="list-style-type: none"> 本校で実施する業者試験の結果について、生徒への指導を丁寧に行い、生徒の学力を伸ばすための教科検討会を、業者試験毎後に実施すると共に毎学期ごとに検証する。 「本校で育みたい力」を明確化し職員間で共有するために作成した各教科・科目における指導計画（育成指針）に基づき、年間指導計画を策定する。 | | |
| | | <p>総括評価（これまでの訪問①～④を踏まえた課題解決の取組状況に係る評価） ＜評価委員＞</p> | <p>総括評価を踏まえた次年度の学校運営に係る改善点および改善方法 ＜実施校＞</p> |
| | | <p>第三者評価の期間において課題への改善が行われており、また、課題解決に関する取組は高く評価される。より良い教育を実現し、生徒の進路実現の可能性を一層高めるために、今後、持続的な取組や発展が求められる。進路指導・支援と授業の改善のこれまでの取組を当校の良き文化として定着、形成するとともに、今後の発展に向けて、新たなアイデアを創出し、イノベーションを起こすことが必要である。</p> | <p>本校の長所である「温厚な雰囲気、安心して通える学校、良い人間関係」を「共生社会、多様性への理解、公共性への貢献」として位置づけ、学校のビジョン、目指す生徒像をカリキュラムで明確化し、外部に積極的に発信していく。また、引き続き、総合的な探究の時間の研究指定校として、ここまでの研究成果を生かした授業設計を通して、大学入学後の研究や新たな時代を切り開くための思考力や表現力を育成していく。そのために、次年度は年間3回程度（各学期1回）のキャリア支援会議を開催することで教員間の意識共有と、校内の進路指導体制の一体化を図る。さらに引き続き、「各教科・グループの育成指針」を作成し、「本校で育みたい力」を明確化した年間指導計画を策定する。</p> |